

平成31年度 岡山県立西大寺高等学校 重点目標

学校経営目標	新しい時代を生き抜く力を持った生徒の育成 ～自己肯定感を高め、進路目標に向かって主体的に学ぶ生徒の育成～	重点目標と評価
		1 学びの環境を整備し、生徒の能力を最大限に引き出す。 (1) 物理的・精神的環境を整え、生徒の心身の健全な成長を支援する。 (2) 進路指導（＝キャリア教育）体制を再構築し、生徒・保護者・地域の満足度を高める。 (3) 地域の人的・物的資源を活用しながら生徒の挑戦を支援し、生徒の希望の実現に努力する。 2 生徒の論理的思考力を高め、考える力を基盤とした七つの力の獲得に努める。 (1) 主体的・対話的で深い学びの実現を核として授業力向上に努める。 (2) 生徒の活動を肯定的観点から評価し、エビデンスに裏打ちされた教育活動を行う。 (3) 探究活動の充実を通じて、地域貢献意識や自己肯定感を高める。

該当する経営目標の番号	課・学科・学年等	具体的目標	具体的計画	達成基準
1	総務課	・地域の人的・物的資源を活用し、生徒が社会貢献活動やボランティア活動等に参加する場をより多く提供し、生徒の進路選択・希望進路実現に向けた挑戦を支援する。	・百花プラザや公民館等、地域の施設との連携をより深め、生徒が主体的に参加できる活動機会の充実を図る。 ・現在、地域と連携し行われている様々な活動状況を集約・整理するとともに、新たな繋がりを模索する。	・学校自己評価アンケート「社会貢献活動やボランティア活動の機会が多く設けられている」の生徒の評価ポイントが85を超えている。【H30年度 85】 ・現在、地域と連携し行われている様々な活動状況が集約・整理できている。
	教務課	新学習指導要領の施行に向けて、教育課程や内規の整備を行う。	・各課・室、教科との連携を図り、情報の共有を行う。 ・校外での研修に複数回参加し、情報の収集を行う。	・新教育課程が7月末までに完成する。 ・整合性のとれた内規が年度末までに完成する。
	生徒課	学校内外での諸活動を通じて、生徒が豊かな人間性や社会人としての資質を身につけるための援助を行う。	・T P Oにに応じた態度の醸成を通じて、公共心に富んだ社会人としての自立に必要な状況把握力・傾聴力・発信力・柔軟性を向上させる。 ・論理的な対話により、交通法規も含めたコンプライアンスの意識を高めさせる。 ・生徒会活動などの特別活動や部活動に、本校の定めた活動目標や方針に基づきながら効率的に取り組ませ、心身の健全な成長を促しながら、協力する力・実行力・自他肯定力を向上させる。	・100%の生徒が制服の着こなしや頭髮などの身嗜みを整えることができ、積極的に挨拶することができる。 ・重大な交通違反や事故の件数が0となり、かつ年度末の学校自己評価アンケート「社会人としてのマナーやルールを学習する機会がある」の生徒の評価ポイントが60を超えている。【H30年度 57】 ・特別活動や課外活動に多くの生徒が学業優先の意識を持ちながら、能動的に参加している
	進路指導課	他課室や英語科を中心とした他教科と連携して1・2年生の新たな入試制度への対応を進めるとともに、生徒が希望する進路の実現を可能にする。	・『進路便り』、C C T、保護者説明会等を利用して、新入試制度の具体的な内容を周知させ各教科で対応を進める。 ・各学年の段階で取り組む課題を理解させ意識させ、進路実現に向けて自ら取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・より高い進路実現に向けて卒業まで粘り強く頑張り抜く生徒を増やす。	・1年生のすべての生徒が新入試制度を理解し、2年生は各教科で新テスト対応の具体的な取組を行っている。 ・3年生の普通科・国際情報科生徒の85%以上がセンター試験を受験する。【H30年度 84%】
	厚生課	・校内美化に力を入れ、教育環境の整備に努める。 ・奨学金が活用しやすい環境を整える。	・教室・廊下・トイレを重点的に清掃する。 ・様々な奨学金を広く認知させ、利用しやすい環境を整える。	・学校自己評価アンケート「校内美化が図られ、落ち着いた教室環境が整っている」の生徒の評価ポイントが上昇する。【H30年度 42】 ・奨学金に関する業務の効率化や見直しができた。
	図書課	・図書館を活用した探求活動の充実を図り、読書に親しむ態度を育てる。 ・視聴覚・情報処理関連機器の活用頻度を向上させる。	・図書委員会活動の充実と、授業での図書館利用を促進し、読書への関心を高める。 ・継続した保守により利便性を向上させるとともに活用の研修会を開催する。	・授業・C C T・L H Rで100時間以上の図書館利用時間数があり、貸出冊数が5,000冊を超える。【H30年度 4500弱】 ・I C T機器の週1回程度の充電・アップデートや視聴覚機器の月1度程度の点検を80%以上行うことにより、利便性を向上させる。
	教育相談室	・心に悩みを持つ生徒が安心して相談できる環境の整備に努める。	・長期欠席者・不登校生徒・保健室頻回利用者の情報を的確に把握し、チームで迅速な対応をする。 ・特別支援教育との連携を密にし、心の問題と発達の問題を混同することなく適切に対応する。	・月に1回以上、情報共有のための会議を開く。 ・長期欠席者・不登校生徒・保健室頻回利用者の情報が気づきシートに蓄積され、学年の中で共有されている。

2	1年	学習を中心に捉えた基本的な生活習慣の確立を図る。家庭学習の習慣を定着させる。	普通科と国際情報科は週あたり一日平均の家庭学習時間を3時間以上確保させる。週末課題をきちんと取り組ませる。商業科は自主的に学習に取り組む時間を確保させる。	普通科と国際情報科は週あたり一日平均3時間以上の割合を60%以上。週末課題提出率90%以上。商業科は検定合格率を上昇させる。
	2年	主体的な学び、対話的な学び、深い学びの必要性を理解させ、将来の進路実現を目指した継続的な学習に取り組ませる。	授業スタンダードの実践、定着をはかる。スケジュール帳を活用させ、学習活動の中にもPDCAサイクルを意識させる。	家庭学習3時間以上の割合60%、4時間以上30%。 【1年時平均 3時間以上19%、4時間以上6%】 スケジュール帳の活用率90%以上。
	3年	進路実現に向けて適切な進路指導を行い、生徒の希望を実現させる。	細やかな面談を行い、適切な進路情報を与える。学期やテスト後に振り返りをさせ、改善策を考えさせる。	学校自己評価アンケート「将来の進路や生き方について学習する機会がある。」について「よくあてはまる」と答える生徒の割合が2年次より5%アップする。【2年次は52%】
	普通科	キャリア教育の推進を通して、各学年の段階に応じ、人生設計の一部としての進路意識を持たせ、生徒一人一人の目標達成のために取り組む力をつけさせる。	進路指導課・学年・担任・教科と連携し、LHR・CCT・担任面談を通じて進路（学習）への意識を高め、特に進学を見据えた学習活動の充実に向け働きかける。	普通科だけの行事や集会というものはないので、他の校務分掌・学年の進路指導の達成が、「科」としての達成に繋がると考える。
	商業科	ビジネス活動に関する専門的な学習を深め、関連する資格を取得し、社会貢献できる人材を育てるとともに、新学習指導要領への対応を進める。	・地域の人的・物的資源を活用して、ビジネスマナーの向上や国内外の経済事情の把握、勤労精神や地域社会貢献に対する意識を持たせ、周知する。また、必要な情報教育機器の整備を行う。 ・新学習指導要領への対応に向け、教育課程の編成や指導法の研究を行う。	・ビジネスマナーや経済事情に関する講演会等の実施及び商品販売や税の学習に関する地域社会貢献活動における満足度が80%を超えている。また、行われた活動をすべての生徒に周知する。 ・インターネットに接続され、かつ様々な情報を処理するために必要なハードウェアやソフトウェアが整備されている。 ・新学習指導要領の実施に向け、外部の情報を収集しながら教育課程表が整備できる。併せて効果的な指導法について教員の意識が高揚する。
	国情科	岡山大学留学生との交流会、イングリッシュキャンプ、校内外のスピーチコンテストなどの行事に向けて生徒が主体的に課題を見つけ学ぶ授業を展開する。	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の評価と改善を行う。 ・各行事の目的と目標を明確に示し、具体的な計画を立てさせる。	・卒業時のCEFRのA2レベル相当以上の生徒の割合が100%。 ・80%以上の生徒が行事ごとの振り返りと年度末のアンケートで自らの主体的な取組と深い学びを具体的に表現できる。
	学力向上委員会	公開授業やOJT校内チーム研修等による研究授業を促進し、主体的・対話的で深い学びを実現し、学力向上に資する授業力の向上を図る。また、生徒向けの統一した授業アンケートを作成し、実施する。	・OJT校内チーム研修による課題の共有、実践を行う。 ・新学習指導要領を踏まえた授業研究を進め、全体での共有を図る。 ・公開授業・研究授業の成果を校内外に発信する。 ・生徒向け授業アンケートを作成し、各教科科目で統一して実施する（年2回）。	・研究授業を実施または参観した教員の割合が100%（教員） ・学校自己評価アンケート「授業の進め方等に工夫が見られ、分かりやすく充実した授業である」の項目のプラス評価の割合が80%以上【過去3年間では、70%台後半を推移】（生徒） ・授業アンケートの各評価項目のプラス評価の割合が80%以上（生徒）
	1年	社会貢献活動などさまざまな体験活動や地域との交流を行い、明確な進路意識・課題意識を持つ。	CCTの授業を活用して大学訪問や出前授業を行うことにより、学問研究や自己の在り方や生き方について考える。	学校自己評価アンケートの「将来の進路や生き方について学習する機会がある。」の生徒の評価ポイントが80を超える。【H30年度76】
	2年	社会の変化（入試制度、就職試験等）の対応できる人材を目指し、七つの力を獲得させる。	CCT、修学旅行の事前事後学習、学年集会等で、生徒自身の意見考えを発表させる。また他人の意見からも、さらに深い学びを意識させる。「キャリアノート」を活用させ、自身の振り返りを行いながら、七つの力が身についたかを確認させる。	年度末にアンケートをとり、進路意識（目標設定）が深まった者90%以上。Eポートフォリオへの入力状況100%。
	3年	7つの力の育成・伸長を図る。（その中でも「傾聴力」と「発信力」に重点を置く）	授業の中で主体的・対話的で深い学びができるように授業改善を図る。授業内外で、論理的思考力を育成し、「傾聴力」「発信力」を伸ばす。	12月にアンケートをとり、4月に比べて「傾聴力」「発信力」が伸びたと答える生徒が60%を超える。